

Web サイトの

ユーザビリティを高めるために

チェックすべきポイント



お客様と共に次の今を創る。

TOYO

ユーザビリティとは？

ユーザビリティは、一般的に「使いやすさ」と言われますが、JISやISOという標準規格では、ユーザビリティとは、特定のユーザーが特定の状況において、その製品・サービスを使って、「効率よく目的を達成できるか」「嫌な思いをしないか」「また使いたいと思えるか」といったことを指しています。

ユーザビリティの高い製品は、使い勝手が良くストレスが少ないため、ユーザーにとって快適な体験を提供できます。企業や開発者にとって、ユーザビリティの向上は顧客のロイヤルティや製品の成功に直結する重要な要素となります。



Web サイトのユーザビリティとは？

Web サイトにおけるユーザビリティは、訪問者がサイトを効率的かつ効果的に利用し、満足する体験を提供することに焦点を当てています。良いユーザビリティを持つ Web サイトは、ユーザーが求める情報やサービスを簡単かつ迅速に見つけられるように設計されています。

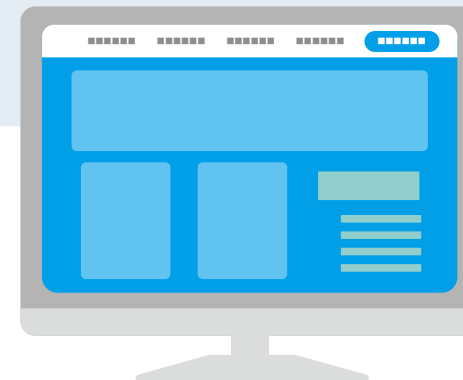
Web サイトにおけるユーザビリティの要素を適切に管理することで、ユーザーがサイトを再訪したり、サービスを利用したりする意欲を高めることができます。



Web サイトのユーザビリティを高めるためにチェックすべきポイント 1

ナビゲーションはわかりやすいか

Web サイトのナビゲーションとは、「メニュー」や「リンク」などユーザーがサイトを直観的に使えるよう支援する機能です。適切なナビゲーションが設けられていることで、Web サイト内をスムーズに移動でき、ユーザーは簡単に情報を探したり閲覧したりすることができます。ナビゲーションにはさまざまな種類がありますが、ここではグローバルナビゲーションを工夫することでユーザビリティを高める方法をご紹介します。



グローバルナビゲーションでユーザビリティを高める主な手段



ユーザーが求める情報を優先的に表示する

グローバルナビゲーションの設定は、ユーザーの視点を重視して行いましょう。ユーザーが特に求める情報を優先して配置することが大切です。

ナビゲーションを設定した後は、定期的にアクセス解析を行い、その結果を基に改善を重ねることで、よりユーザー目線に立ったグローバルナビゲーションを実現できます。



ユーザーが理解しやすい言葉を使用する

メニューやボタンの文字数が多すぎたり複雑な漢字が使われていたりすると、視認性が損なわれ、リンクとしての効果が低下する可能性があります。

また、英語表記は見た目が洗練されているように感じられますが、意味が伝わりにくくなることも考えられます。できるだけわかりやすい言葉を使用し、ユーザーが直観的に操作できるようにしましょう。



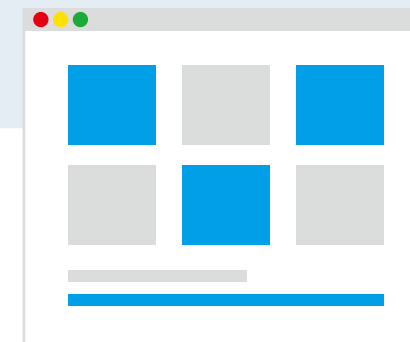
最短距離で目的のページに到達できるようにする

グローバルナビゲーションでは、ユーザーが最短距離で目的のページに移動できるようにすることが重要です。例えば、メニュー項目をクリックするか、カーソルを置くだけでサブメニューが展開される「ドロップダウンメニュー」を導入することで、下層ページにアクセスしやすくなります。これにより、2 階層目のメニューを開くことなく直接下層ページにアクセスできるため、ページ訪問の労力と時間を削減し、Web サイトの利便性が大幅に向上します。

Web サイトのユーザビリティを高めるためにチェックすべきポイント 2

サイト全体が一貫したビジュアルであるか

Web サイトのビジュアルに一貫性を持たせることは、ユーザーが直感的に操作できるようにする上で非常に重要です。Web サイト全体を一貫性のあるビジュアルすることで、よりプロフェッショナルで信頼性の高い印象を与え、Web サイトがユーザーにとって快適で使いやすいものになります。



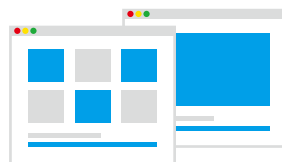
サイト全体を一貫したビジュアルにする主な手段



フォントやテキスト、カラーを統一

テキストのフォントファミリー、サイズ、色を統一することで、サイト全体の視認性が向上します。重要な情報は太字や大きなフォントで強調し、一般的なテキストはシンプルなスタイルにするのがベターです。

またサイト全体の配色を統一することで、視覚的な調和とブランド認識を強化できます。色は情報の優先順位を設定する手段としても役立ちます。



レイアウトとグリッド構造を統一

各ページのレイアウトを統一することで、ユーザーはナビゲーション要素やコンテンツの場所を直観的に把握できます。例えば、ロゴの位置、メニューバーの配置、コンテンツのグリッドなどが一致していると、サイト内のページを移動しても操作に迷うことがなくなります。



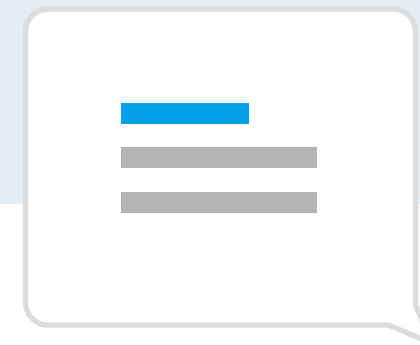
画像、アイコン、イラストのスタイルを統一

画像、アイコン、イラストなどのスタイルを統一することも、Web サイトを一貫性のあるビジュアルにするための重要な手段です。

Web サイトのユーザビリティを高めるためにチェックすべきポイント 3

ユーザー行動への 適切なフィードバックがあるか

Web サイトのユーザー満足度は、適切なフィードバックの有無によって大きく左右されます。
ユーザーが行動を起こした時のフィードバックは、具体的でわかりやすいものにすることが大切です。



ユーザー行動への適切なフィードバックの例



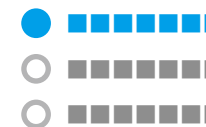
タスク完了後の成功を伝える

ユーザーがタスクを完了した際には、成功を明確に伝えるフィードバックが必要です。例えば、フォームの送信後に「送信完了」メッセージを表示することで、ユーザーは自分の行動が成功したと確信できます。



画面が処理中の場合に アイコンを表示する

長いプロセスやデータのロード時には、プログレスバーやローディングアイコンを表示することが効果的です。これにより、ユーザーはプロセスが進行中であることを知り、待ち時間の不安を軽減できます。



選択肢を簡潔にまとめる

メニューの選択肢が多すぎるとユーザーは探しにくくなるため、選択肢はできるだけ絞り込んだり、簡潔にまとめるのが適切です。

例えば年齢の選択肢の場合、「20代」「30代」「40代」「50代」「60代以上」のようにすることで簡潔にまとめることができます。重要な選択肢を先頭に配置することも有効な手段です。

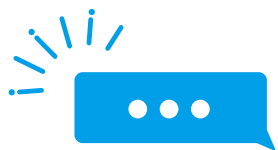
Web サイトのユーザビリティを高めるためにチェックすべきポイント 4

エラーメッセージは ユーザーを混乱させない内容であるか

誤った方法でのエラーの予防と回復は、ユーザーから攻撃的に受け取られてしまい、不満を引き起こす原因になります。エラーメッセージではユーザーを非難するのではなく、サポートすることが重要です。ユーザーが「恥ずかしい」と感じることなくエラーを予防し、エラーからの回復を効果的に支援しましょう。



エラーメッセージでユーザーを混乱させないようにするためのポイント



エラーメッセージを早く出しすぎない

フォームのエラーメッセージは、ユーザーが入力欄から移動した後に表示するのが適切です。入力している最中にエラーメッセージが表示されると、ユーザーは不当な叱責のように感じる場合があります。一方、フォームの入力ルールについてはユーザーが入力を始める前に提示しておくとい良いでしょう。

入力が必要の項目は、アスタリスクや「必須」と明記することでユーザーに知らせましょう。

必須項目に対して追加の警告がある場合は、ユーザーが項目を入力せずに送信しようとした時にのみ表示するのが適切です。



警告の視覚的デザインは エラーの場合にのみ使用する

警告のような視覚処理（赤いテキスト、注意や警告のマークなど）は多用せず、ユーザーへ重要なエラーメッセージを伝える場合にのみ使用しましょう。

Web サイトのユーザビリティを高めるためにチェックすべきポイント 5

アクセシビリティは適切か

Web アクセシビリティとは、「Web 上の情報や機能が全ての人にとってアクセスしやすい状態」を意味します。

例えば、Web サイト上のテキストが誰にとっても読みやすいことなどの配慮が挙げられます。

Web アクセシビリティには国際基準も設けられており、Web アクセシビリティの向上は「どんなユーザーでも」「どんなデバイスでも」利用しやすくするために重要な要素です。



Web アクセシビリティを最適化する主な手段



テキストの視認性を確保する

視覚的なコントラストが十分でないと、視覚障害を持つユーザーや高齢者にとっての視認性が低下します。フォントの最小サイズは Google が推奨している 16px を基準にし、読みやすいフォントを使用しましょう。



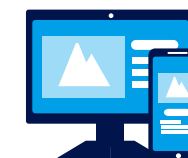
キーボードだけで操作可能にする

キーボードだけですべての操作ができるようにしましょう。特に、フォーム、ボタン、リンクなどの要素には、タブキーを使って順番にアクセスできるようにするのが適切です。



代替テキストを設定する

画像や動画には、その内容を説明する代替テキスト（alt テキスト）を設定しましょう。



レスポンシブデザインを採用する

スマートフォンやタブレットなどでも Web サイトが正しく機能するように、レスポンシブデザインを採用しましょう。小さいスクリーンや異なる操作方法にも対応することが重要です。

お問い合わせ先

この度は資料をダウンロードいただきありがとうございます。
サービス内容や料金に関するご質問・ご相談がございましたらお気軽にお問い合わせ下さいませ。

お問い合わせフォーム

<https://www.toyo-grp.co.jp/contact/>



サービス紹介ページ

<https://www.toyo-grp.co.jp/service/>



お客様と共に次の今を創る。

